

2021年度 第50回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物件名	グランシェフズキッチン		
	所在地	石川県白山市	
設計者	株式会社トイットデザイン		
	TEL		URL



別添

『Grand chef's kitchen』設計趣旨

2021年7月に開業したショッピングモール「イオンモール白山」内に計画した複合レストラン。『グランシェフズキッチン』と称するこのフロアは、日本を代表する有名シェフが監修する飲食店を含む6店舗で構成された、国内唯一の業態となる高感度レストランゾーンとして企画された。

全体のデザインコンセプトとしては、約440坪のフロア中央に配置したパティオ（屋内緑化）を囲むように開放的なインドアテラス席を設け、それぞれのファサードデザインを展開した各店内はオープンキッチンスタイルとし、躍動感溢れる調理風景が間近に見えるカウンター席、落ち着いたあるテーブル席で構成した、緑を感じながら五感で料理を味わえる美食のエンターテインメント空間を演出した。

ショッピングモールという商業施設において、統合的に新たな食の街をつくるという従来にはない試みにより、個々の店舗が一体となって、地域に根差した食文化を発信し、賑わい溢れる場を生み出すことで、より多くの人に豊かな食体験を楽しんでもらえるよう願っている。

「パティオ」

サブゲートとモール内通路を貫く共用スペースに、造形的な段状の花壇を配し、自動灌水システムとタイマー制御により時間帯に応じてシーンが変化する照明システムを導入した屋内緑化を施した。中央に設えたステージでは、演奏会等の様々なイベントを行う事ができ、非日常体験を愉しめるシチュエーションをつくり出している。

「ビストロ イルドレ（フランス料理）」

白と黒のモノトーンを背景に、シェフのイメージカラーである赤、ゴールドをアクセントとし、インドアテラス席に深くテントを張り出し、賑わいのあるパリのビストロを感じさせるイメージとした。

「イル・ケッチアーノ（イタリア料理）」

ライトグレーの内装を基調に、木と鉄の質感を取り入れ、テーブル席背面の壁に、地中海をイメージした鮮やかなマリンブルーの色彩を表現し、カジュアルなトラットリアの雰囲気演出した。

「らはさか（日-料理）」

オープンキッチン内に設えたガラス張りの炉端ブースを囲むように、コの字型のカウンターを配置し、焼杉、瓦、土壁、和紙、拭き漆等、和の素材感を活かした趣のあるインテリアとした。

「招龍亭（中国料理）」

ファサードに中国現地で製作したオリジナルの組子を据付け、店内はモダンチャイニーズをコンセプトに、中国の古典的な様式と現代的なテイストが融和した独創性のあるデザインとした。

「カフェ ドゥ アッシュ（スイーツ・カフェ）」

入店者の流れを考慮し、モール内通路からアクセスできる販売コーナー、パティオに面するテラス席及びイートインスペースが店内で繋がるゾーニング計画とし、視認性を高める効果を意識した。（※この区画は基本設計及び監修のみ）

「学生のパン屋さん（ベーカリー）」

モール内通路に面して間口いっぱい販売コーナーを構え、オフホワイトをベースとした店内にジュエリーショップの様なショーケースを配置し、購買意欲を湧かせるような什器レイアウトを計画した。

2022年度 第50回 いしかわインテリアデザイン大賞 「石川県知事賞」

物件名	越中五位花尾温泉 山帽子		
	所在地	富山県高岡市	
設計者	デザイナー名 北陸ミサワホーム(株) 中山喜昭・ヨシダ宣伝(株) 河野慶太、吉田篤史		
	TEL		URL



別添

■内容説明

小矢部市で30年以上親しまれてきた「とやまふくおか家族旅行村」を北陸ミサワホーム様運営のもとで複合レジャースポット「MONLACK」として生まれ変わらせる事業の一環として「ロッジ山ぼうし」を「山帽子」としてリニューアルさせてたプロジェクト。

アイコニックな赤い屋根が印象的な外観にはあまり手を加えず、ロビーや客室、レストラン等、主に内部を現代的なデザインに変様させた。

立地は小矢部市街から車で20分ほど登った山の中にあり、五井ダム湖の隣に建てられている。ロビーや客室からはこのダム湖を一望することができ、山の木々と合わせて四季の移り変わりを楽しむことができる。内部は黒を記帳としてダム湖の眺望を最大限楽しめるデザインとしており、特に客室は全室半露天風呂付きとなっており、天然温泉に浸かりながら自然を独り占め出来る仕組みとなっている。

一方でロビー階段部の壁面には富山の職人の手によって施された特殊塗装ダム湖を含む自然との一体化を図る共に、自然が持つ力強さやエネルギーを内部にも取り込むことで空間全体を印象的に演出している。また高岡の伝統工芸である着色銅板のアートパネルや室名サインとしたり、福岡町の工芸品である菅笠をイメージしたペンダント照明等を随所に配している。さらに高岡市は「万葉集」も有名な町であるため客室名やレストランの名前には万葉集の句から取り入れるなど、様々な面で富山が持つ文化や歴史の奥深さを発信する場になるように配慮した。

建築としてはソーラーパネルや水素蓄電システム等を導入して、環境負荷を最大限抑えたゼロ・エミッションを目指すと共に災害時には近隣住民の避難所として機能することも目指している。

以前の家族旅行村のように自治体による運営が上手く機能していない同様の施設が全国にある中で、今回の取り組みが施設再生や地域の活性化につながるモデルケースとなるような有意義なプロジェクトと言える。

2022年度 第50回 いしかわインテリアデザイン大賞 「金沢市長賞」

物件名	手仕事、金箔		
	所在地	金沢市立安江金箔工芸館 1F	
設計者	金沢美術工芸大学 石川県箔商工業協同組合		
	TEL		URL



別添

概要：

金沢市立安江金箔工芸館の東山移転 10 周年を記念した金箔屏風パネルの製作を金沢美術工芸大学と石川県箔商工業協同組合の産学連携で行った。

デザイン：

金箔屏風パネルの表側にあたるデザインは二枚一組で、離れてみたときには円形になっており、近距離でみた際には金箔のエッジ部分が手形の集合で面を形成していることが分かるデザインとなっている。二枚一組のデザインが反転する形でパネルは連なっており、連続させることでの調和性と、単調にならないよう変化とバランスをとりながら屏風としてのデザイン性を重視した。

技術施工：

製作では複雑な手のひらのデザイン表現に高度な箔加工技術を要することから石川県箔商工業協同組合の協力のもと製作を行った。さらに課題となったのが直射日光が曝露することによる劣化を防ぐ耐久性の保持をしつつも、金沢箔のもつきらびやかさを損なわないようバランスをとるためテストピースを繰り返し製作しながら進めた。同時に箔装飾を施すベースのパネル什器と箔の親和性も求められるためパネルの仕上材の選定や、自立や日光による熱変形などの構造問題についても検証を行いながらの製作となった。